日刊 動労千葉

81.8.5

No. 813

国鉄千葉動力車労働組合
千葉市要町二一－八（動力車会館）
（鉄電）二九三五～六・（公衆）〇四七二（22）七二〇七

三里塚・ジェット闘争貫徹！「国鉄35万人体制」粉砕！

17日間の獄中、完黙闘争を闘って

6名の仲間の報告と決意 2

「本部」反動分子を一掃し、闘う拠点＝津田沼を守りきる

（津田沼支部書記長）重見敏夫

七月十五日、突然、津田沼支部組合事務所の捜索を行なった千葉県警船橋警察署は、捜索が終った直後、不当にも逮捕をしてきました。

一担、船橋警察署に身柄を拘束され、六人はそれぞれ別々の警察署に送られました。私は佐倉警察署に留置され、直ちに取り調べが始まりました。二日間にわたり、いろいろ聞いてきたが、一切の尋問には黙秘で闘い、勾留裁判では「十日間の延長」という天人ともに許せない攻撃を裁判所は検事のいうまま認め、勾留が決定されました。

ニコポンと脅しで朝から晩まで転向強要

十七日の夜から直ちに本格的な取り調べが始まりました。始めの頃は組合や家族等の一般的な事柄からはじめ、だんだんと「動労千葉はもはや労働組合ではない」とか、「毎年暴力をやっているではないか。今度の件は見のがせない。徹底的にやってやる」等の高圧的な態度で、「なぜいえないのだ、卑怯者！」などと口汚く挑発し、時としてはこちらの完全黙秘に対してイライラをつのらせ、机をたたきながらデッカイ声でどなりつけ脅かす、などのやり方で迫ってきました。私は、どんな事を云われても黙秘してがんばり、こんなデタラメなデッチあげ告訴なんか絶対にうちくだいてやるんだと構えきって押し通しました。

嶋田らの顔を思い浮べ一日一日を勝ちぬいた

検事の調べは長時間にわたって、家族の事などをもち出してきたり、「こんなことをしていては社会には通用しないぞ」「なぜ事件について自分の意見を云わないのだ」等さまざまな手を使って迫ってきたけれどもすべて黙秘して闘いぬきました。

連日、長時間にわたる取り調べに対して、くる日もくる日も同様に一言も口をきかず闘うという事は、ほんとうに一日がこんなに長く感じたことはありませんでした。

けれども、マイクを通して良くきこえる毎日の、外の仲間からの激励にはげまされ、そして何よりも、あの嶋田誠や斉藤吉司の顔を思い浮べては「あんなのに負けてなるものか！」と気を引きしめ、そして、今日もまたがんばりぬいて勝ちぬいた上で、未決の独房の布団で寝るのだ－そういう気持で一日一日の勝利をかけてがんばりました。

再勾留の五日間が決まって以降は、急に取り調べも一八〇度方向を変えて、実家の話し、趣味とか「事件と関係無いんだから話そう」というやり方のニコポンでさそいをかけてきましたが、これも黙秘でうちくだいてきました。

私が今、職場にあって静かに決意していることは、

第一に、権力の手を借りてまで動労千葉破壊を行なわんとする動労「本部」革マルを国鉄労働運動から絶対に一掃しなければならないということです。

第二に、動労「本部」革マルの「職場規律の厳正要求」なるものを利用した、国鉄当局の八〇年代型の第二マル生攻撃を、今こそ総力あげて粉砕しなければならないということであります。

私は、動労千葉と全国の仲間と共に、この闘いの先頭にたって闘います。

動労千葉の正義と誇りにかけて、完黙非転向、不起訴奪還をかちとった三同志。

更なる前進を誓う、右から、重見書記長、小倉執行委員、深見乗務員会長。（7月31日、動力車会館）

権力と「本部」革マルの完全一体の攻撃を断じて許さない

（津田沼支部執行委員）小倉邦夫

今回の権力－動労「本部」革マル一体となった不当逮捕に対して、激しい怒りを感じないわけにはゆかない。今回の私達六名に対する逮捕ほど政治的な不当逮捕はないと思います。

取り調べと称してもっぱら、「組合役員をやめろ」「動労千葉を脱退しろ」等と転向を強要してきました。そして、「鹿島線における鉄橋の焼き切り事件を電車運転士としてどう思うのか」あるいは「機関車焼き打ちをどう思うか」などが中心的な追及であり、検事にいたっては、「今までの様なことを続けていると、革マルに狙われて生命があぶないぞ。通勤等で外に出るときはヘルメットをかぶったほうがいいぞ」などというしまつでした。

動労千葉の闘いの確信が支えた完黙闘争

こうした内容での取り調べが連日七時間～八時間にも及びましたが、私は動労千葉の闘いに確信をもって完全黙秘で闘いぬきました。

完黙の闘いに困惑した権力は、「嶋田誠は斉藤吉司より動労千葉にうらまれているのは、なぜだ：」とまで云いだすしまつでした。

私は、身体の中からふつふつとわき出る怒りは、権力と一体となった動労「本部」革マルに対する怒りであります。

自分たちの路線的破綻を、デッチあげの告訴をもって、権力に労働者を売りわたすことによって乗り切ろうとする、動労「本部」革マルを許すわけにはいかない。

完全黙秘で闘いぬいた力をもって、かならずや、動労「本部」革マルに思いしらせてやる決意です。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！